

カンボジア商業銀行の経営効率性—確率的フロンティア分析—

一橋大学 奥田英信

一橋大学大学院 相場大樹

本稿は、2000年代以降に漸く成長が定着し今後の一層の発展のために金融部門の整備が喫緊の課題となりつつあるカンボジアを取り上げ、金融部門の中核であり金融改革の主要な対象となっている銀行についてその経営特性の計量的な分析を試みた。具体的には、本稿では、カンボジア国家銀行(National Bank of Cambodia)による2012年から2015年までの4年間の年次データを利用して、商業銀行35機関の経営効率性および生産性変化を、SFA(Stochastic Frontier Analysis)で計測した。本稿で得られた観察結果の要点は次の通りである。

カンボジアの銀行業では規模の経済性が発生しており、金利収入業務と非金利収入業務の間で範囲の経済性が確認された。また、カンボジアの商業銀行では、非常に大きな非効率性が観察された。その要因として第1に、外資系銀行と地場銀行を比較すると、地場銀行がより非効率であった。第2に、流動性を過剰に持っていることが、非効率性に大きな影響を与えており、その影響は非常に大きかった。銀行の経営多角化は経営効率を高める効果があった。第3に、地方に支店網を広げることは銀行経営にとって非効率であることが示唆された。第4に、外国からの資金調達の大きさは効率性に影響を与えていないことが分かった。

これらの観察結果は、カンボジア銀行部門がそれなりの経営構造を既に作り上げているものの、今後の一層の効率性改善のためのいくつかの政策的な示唆を意味している。第1に、大規模銀行がより効率性が高いということから、銀行の規模を拡大し経営の多角化を図ることが必要だという点である。第2に、地方支店の展開は銀行経営を悪化させており、国内資金動員を促進する観点からは、支店展開に対して何らかの支援政策が必要であるという点である。第3に、銀行が過大な流動性を保持していることが、非効率性の大きな原因となっており、ドル化経済の下で中央銀行の最後の貸し手機能を回復する何らかの政策を実施することが強く求められるという点である。